

## 特別講演 1

# 「マイクロバイオーームが支配する胆汁酸代謝と慢性便秘症」

京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学 准教授

内藤 裕二 先生

消化管臓器が全身臓器との密接な相互関係の中で、代謝・免疫・炎症・神経応答に関与し、生活習慣病、神経骨格筋疾患などの成因に関与することが明らかとなりつつある。消化管環境を決定づける要因としては、微生物叢（マイクロバイオーーム）とその代謝物が注目され、次世代シーケンサーによる腸内微生物叢遺伝子解析技術、質量分析計による代謝物分析技術なども急速に進歩した。マイクロバイオーームは多彩な代謝物（メタボローム）を産生し、直接的あるいは受容体を介して生体応答に影響を与える。代謝物のなかには、食物繊維の発酵による多彩な短鎖脂肪酸、水素、メタン、硫化水素などのガス状分子種、アミノ酸や多彩なペプチド、ヒト胆汁酸に由来する二次胆汁酸など水溶性、非水溶性メタボロームが存在している。近年、慢性便秘症と胆汁酸代謝の関わりが明らかになり、胆汁酸トランスポーター阻害剤による治療も開始されている。本講演では、マイクロバイオーームと胆汁酸代謝から見えてきた慢性便秘症の病態と治療について考えてみたい。